

第4回定例会

町長より行政報告がなされました。
(内容は要約して掲載しています。)

・町長行政報告

町長行政報告 (要旨)

農業情勢について

春先の天候には恵まれたものの成長期の異常とも思える長雨、低温、日照不足による影響が作物全般に及び、収穫期の作業にも苦勞が多く天候に泣いた一年でありました。秋まき小麦は刈り取り期に天候に恵まれ何とか平年並みの収量を確保できました。ビートは収量は下回ったものの糖度が高いことで、販売額は計画に近い額との見込みです。特産物のかぼちゃは大きく減収となり、その他の作物も総じて平年を下回る結果で、農産物全体の農協販売計画、16億2千万円に対し、実績で

平成21年は天候不順だったが、農業販売額は計画近く持ち直した。漁業は非常に厳しい状況！

は14億7千万円程度との報告を受けております。

畜産関係では、昨年来の配合飼料価格の高騰はやや高止まりの状況にあります。

生産乳量は乳価が高くなつたことで生産意欲が増し、農家個々の生産量は増えたものの、搾乳戸数の減少分までは補えず、目標を若干下回る4万5千トン程度の見込みとなり、残る四半期での生乳増産に期待するところです。

酪農畜産の販売計画額59億3千万円に対し、個体販売の好調も手助けして実績額では60億4千万円という結果となりました。

農業販売額全体では、計画75億5千万円に対し、実績では75億2千万円程度と見込まれており、天候不順に苦しみながらもほぼ計画に近い販売額に終わり安堵しております。

漁業について

外海ホタテ漁業は、9千200トンの計画でスタート、

12月20日頃まで操業の予定ですが、時化のため出漁日数が少ないことから500トンの未達成となったほか、オホーツク海内の餌不足から貝柱の歩留まりが悪く、キロ単価100円の計画に対し94円と落ち込み、近年にない不漁と予測されるところです。

養殖ホタテ漁業は、近年にない高歩留まりで、キロ145円に対し、実績157円となっており、

養殖力キ漁は、ほぼ平年並みとなりました。

さけ定置漁業は、さけ、ますセンターの来遊予想が外れ、昨年より30%増の漁獲高となったことが経営の一助となっており、

本年の総水揚げ額は、ほぼ計画通りの18億円台となる見込みであります。

公共事業の執行状況について

工事、委託関係の事業は62件で、計画全てが発注されており、一般、特別両会計の契約金額は6億1千万円となり順調に進められております。道管土地改良事業の執行も各地区画事業とも計画通り進んでおります。町有林事業は全て完了しております。

